

熊本発の福祉・医療モデルを通じて、 地域の未来を創造する ～現場や地域、当事者に学びながら～

熊本県地域福祉実践研究会代表 森枝敏郎☺
熊本学園大学社会福祉学部非常勤講師 等
元熊本県健康福祉部長

総務分野；前例のない仕事は良き学び～仕事イノベーション

(天草生れ；九州大学経済学部卒業後・1974年4月、熊本県入庁)

- ① 新任の出納室会計課時代は、新設の資金管理班で県資金の運用を担当＋民間有志を交え同期で自主研究会～組織・社会に慣れる。
- ② 次は、馴染みのマチ・水俣にできた水俣湾公害防止事業所～世界に例のない水銀ヘドロ処理 (150万 m^3)；⇐国内外から注視
- ③ 30歳代半ば、熊飽事務所税務部徴収課係長時代は、暴力団事務所等滞納者を訪問することを通じて**社会の断面**を学ぶ。＋熊本県税で初めての特別徴収班 (マルサ)＋全国植樹祭・天皇視察沿線の修景計画
- ④ 40歳代半ば、人事課総務審議員～行政評価システム導入等「**県第2次行政改革大綱～仕事イノベーション**」策定⇐ドラッカー等参考

企画・地域づくり分野～未来に挑戦するまちづくり

- ① 第2次オイルショック後の1980年7月、新設されたエネルギー対策課で太陽エネルギーなど担当（4年間）～企画業務に自己の適性発見
- ② 細川護熙知事誕生後創設された**市町村派遣職員第1号**として、1985年4月、北里柴三郎博士の生誕地でもある阿蘇郡小国町（企画室）に派遣された。（2年間）～若き宮崎暢俊町長をリーダーに、**町民プランニングシステムなど住民と行政の協働＋内外の知恵の融合**により、**新たな木造建築群の創出**など創造的なまちづくり 😊
 - ・木造立体トラス構法の小国ドームは、**建築基準法改正の契機**に☆全国の注目を浴びるようになり、最初は反対の人が賛成に変わる現象も



ゆうステーション



木魂館



小国ドーム

水俣再生推進～（私の場合）後年の地域共生につながる

③1990年4月、新設された水俣振興推進室補佐（'93～'94年度室長）。

☆水俣病被害者を忌避・差別する人が多い時代の中、患者リーダーの川本輝夫さんや浜元二徳さん、田上義春さん、杉本栄子さん、緒方正人さんや石牟礼道子さんに会い、凄さ・温かさを思う。

十人間の尊厳とは ・時として人間と科学技術の関係が逆転する ・多数意見が正しいとは限らない ・制度は後追いになりがち、+幸福とは何か、人類の行く末は等を、そして、水俣再生の困難性を思い、眠れない夜も。

⇒水俣病問題に向き合いながら、市民相互の融和・共生を基本に水俣再生（環境モデル都市づくり）を軌道に乗せることができた。

～「子供たちにつなぐ水俣を語る市民の集い」（1992年4月）や水俣病犠牲者慰霊式+市民参加による水俣湾埋立地整備、水俣病資料館設置など

「助け合い、励まし合い、志高く」に共感+ドラッカーに親しむ

④企画開発部地域政策総室地域づくり推進室長（1997年度）

・福島譲二知事時代の県総合計画「ゆたかさ多彩～生活創造くまもと」（地域の視点・生活者の視点を重視）の下、地域づくり推進～住民ワークショップや地域からの産業づくり等を推進

・ ※ドラッカーの「イノベーションと起業家精神」に親しむ。

⑤鹿本事務所長兼鹿本福祉事務所長（1998～'99年度）

・大物県議・古閑三博氏のお膝下で地域づくり推進+福祉では、介護保険準備支援等・・・農業改良普及員に福祉課との連携を指示

・ ☆「銀河ステーション」訪問で浅野知事とも縁の阿部るり子さんと出会う。

・ ⇒後年、私にCLCを紹介+「地域の縁がわ」を共想😊

健康福祉部に着任早々、良いイメージを持っていた福祉 の実態に落胆・失望、そして怒り・・・そして、希望！

- ・ 2000年4月、健康福祉部高齢保健福祉課長就任～就任あいさつの「地域福祉を重視」に殆ど無反応～4月半ば潮谷義子知事誕生
 - ・ 介護保険、老人保健、老人保健・福祉施設、在宅福祉、国保、老人医療を担当
 - ・ 殆ど毎週、施設見学（1年目40か所）～時折、飛び込み訪問
 - ①特別養護老人ホーム認知症専用棟の**牢獄ケア**に驚愕・落胆、
＋怒り～分厚い扉の中に、無表情・陰しい表情の利用者 ☹️
※前年度、見学していた網走刑務所が浮かんで来た。
 - ②家族のクレームがあった特養に行くと、**隔離部屋＋半裸体の列**☹️
- ☆県議会・県幹部の微妙な雰囲気の中、サービス事業所指定取消し第1号、
＋特養の資金流用の理事長（元県医師会長）夫妻の刑事告発を法人指導

グループホーム・小規模多機能ホーム そして、施設の個室・ユニットケアに期待

- ③老健の認知症専用棟が最上階とか、特養の回廊等に？ ☹️
 - ☆一方、次のような事例に好感を持ち、希望を抱いた。
 - ④老人保健施設「御薬園」（人吉市）のランチが選択制
 - ⑤GH「きなっせ」（熊本市、川原秀夫理事長）では希望にであう。
～利用者、職員、地域の人達がにこやかにお茶
～「寄り添うケアとは何か」（CLC発行）
 - また、特養・老健の4人部屋に失望したが、我が国で初めての個室・
ユニットケアの特養「風の村」（千葉県）を知り、また、建築家外
山義先生の講演を聴く等により、特養・老健にも希望を持つ。😊
- ☆後年も老健の指定取り消しか否か等を巡り、政治家との接点も多
かったが、利用者・スタッフを守りながら行政としての筋を通した。

全国の人が出会い・交流する熊本へ ～また全国各地へ出かけて行く。

・介護保険初年度（2001年2月）に、CLCの池田昌弘さんから提案のあった
第4回宅老所・グループホーム全国研究交流集会開催

～実行委員会方式（CLC+県内有志+県の協働）で開催+中堅・若手職員も登壇

・私は、「このゆびと一まれ」の惣万佳代子さん（富山市）と同じ分科会
～**共生ケア**に共感⇒2003年2月訪問⇒地域共生ホーム全国セミナー登壇

・浅野宮城県知事と潮谷熊本県知事の対談など多彩・魅力的なプログラム
に熱気が溢れた。～武田和典さんなど、多くの人と出会う。

⇒以降、「**これからの福祉を考える全国セミナー**」を開催したり、全国各地に学びに行き、宮島渡さん、小山剛さん、飯島恵子さん、丸尾多恵子さん、山崎史郎さん（厚労省）等と出会う。

地域共生を目指した地域の縁がわづくり

・全国でも早い**熊本県地域福祉支援計画**を策定（2004年3月）
・また、地域福祉情報誌「わがまち自慢の福祉でまちづくり」発行
※ユニーク職員；小田勝憲主幹、下村登貴子保健師等の存在😊

・**地域共生**を目指し、第1番目の柱に「**地域の縁がわづくり**」
・2番目の柱～「**地域の結びづくり**」
・3番目の柱～「**地域のちからおこし**」（福祉コミュニティビジネス等）
・社協や民生委員・児童委員等に関することは、「**地域の礎づくり**」とした。

※大熊由紀子さん、勝部麗子さん、櫛部武敏さんなどとお出会う。

ハンセン病元患者宿泊拒否事件対応

- 高校時代に知って以来、**ハンセン病療養施設・恵楓園**を遠くに見ていて無知の状態⇒2002年度、部職員研修の総括も担当することになったので、**恵楓園**研修を入れることにした。
- まず、課長自らと思い、恵楓園に入っていくと園内にスーパーマーケットがあることに驚き。太田明入居者自治会長等の話を伺い、また、故郷を離れ亡くなった皆さまに礼拝。また、一人で住居エリアを歩き、何回も訪問することを通じて、**内なる「厚い壁」**が溶けていったと思う。
- 2003年晩秋、南小国町の黒川温泉で**宿泊拒否事件**が起きたので、太田自治会長訪問・意見交換、潮谷知事と協議しながら、旅館業法に基づき、当該ホテル（本社は東京）を3日間、**営業停止処分**
～一部県議の異見や人間に落胆するようなホテル擁護の声も☹

環境・県民生活分野

- 環境生活部次長時代（2004～'06年度）には、2004年10月の最高裁判決で国・県の水俣病拡大責任が確定した水俣病対策の一環として、**胎児性水俣病患者等の地域生活支援事業**を創設
～胎児性患者と一般障がい者等の共生：地域の縁がわを目指した小規模多機能ホームの設置を支援するもの。
- 人権同和対策では同和地区を訪問し、**差別墓地を知る。**
＋意見交換しながら、地域の保健・福祉機能の充実支援
- 男女共同参画推進や食の安全対策、食育計画策定等では、健康福祉部との連携を強化～縦割り行政の解消に努力

こうのとりのゆりかごへの対応

～子ども重視での掘り下げた社会的論議・報道が欲しい。

- ・ 2007年5月、慈恵病院（熊本市）に「**こうのとりのゆりかご**」が設置された。
～世の中は賛否両論激し！...第1次安倍内閣時代、政府は後ろ向き。
 - ・ 施設の許認可権は中核市の熊本市だが、**措置権は県行政**（県中央児童相談所）
 - ・ 私たちは、専門家でもある**潮谷知事**を筆頭に前向きに対応
 - ※現場の中心は、**黒田信子**児童相談課長
 - ・ 数回、慈恵病院を訪問～**蓮田太二**理事長や**田尻由貴子**看護部長から、思いを伺う。
 - ・ 乳児院・児童養護施設訪問～「ゆりかご」を生み出す**社会の現実**を思う。
- ⇒2009年度に**中間検証**（座長；**柏女霊峰**さん）⇒**相談機能等を国に提言するも反応なし**

障がい者差別を無くす県条例制定を推進

～障がい当事者・団体と連携＋千葉県条例を参考に

- ・ 伊達市のノーマライゼーションを学び、また、長野県や宮城県での「施設解体」の動きや**千葉県の条例制定**に刺激を受けて、**県議会議決は簡単ではない状況の中、健康福祉部長1年目に3年後の熊本県条例制定を決意！**
- ・ ⇒職員を千葉県に派遣など条例制定に向けた動きを本格化させた。
- ・ その頃、県議会・県民の多数は消極的だったが、**平野みどり**県議・障がい当事者団体の積極的な動きがあり、**県議会請願が全会一致の採択**。
- ・ 「あうんの呼吸」で条例制定に向けたフォーラムを協働で開催すること等を通じて県民の機運も盛上がり、2011年3月県議会では概ね了解の状況。
⇒（県退職後間もない）**2011年6月県議会で県条例案可決！** 😊
- ・ ※千葉県、北海道、岩手県に次ぎ**4番目**。西日本では初めて。

生活困窮者支援、子ども若者の貧困対策～潤いのある2.5人称の視点で！

- ☆「ホームレスは炭鉱のカナリア」を胸に、また「釧路モデル」（中間就労）を学ぶ
- ・ 2004年3月、熊本県行政で初めてホームレス支援を明記～熊本県地域福祉支援計画
⇒ホームレス支援事例集作成⇒（九州では唯一）緊急一時宿泊事業、自立支援モデル事業
- ・ NPO法人熊本ホームレス自立支援の会の活動費助成（2005～7年度）～地域福祉基金活用
- ・ 地域若者サポートステーション（2007年度～）やひとり親
- ・ 熊本都市圏のニュータウンで孤立死防止モデル事業（2008年度～）～菊陽町社協に委託
- ・ 蒲島郁夫知事の「**貧困の連鎖を教育で断つ**」思いから生活保護世帯からの進学夢応援金貸付制度（2009年度～）、また要保護児童進学応援資金貸付事業（2011年度～）
- ・ アメニティーフォーラムで知った地域生活定着支援事業をスタート！（2010年8月）
- ⇒「生活困窮者対策フォーラム」開催（2011年3月）～櫛部武敏さん、藤田孝典さん
- ☆庁内連携で「生活困窮者対策（貧困対策）に係る推進方策」とりまとめ（2010年度末）

地域医療対策の充実～医療は安心の要との思い

- ○地域医療体制の整備～佐久総合病院や諏訪中央病院等を学ぶ
- ・ 医療連携パスや過疎地等の医師確保対策など、地域医療体制の整備に取り組みながら、**熊本型緊急搬送体制**を構築
- （防災消防ヘリ+ドクターヘリを車の両輪） **+**
- ○健康危機管理体制の強化
- ・ 感染症対策等を強化するため、健康危機管理課を強化
- ⇒WHO・政府の動き良く新型インフルエンザ対策は良好だった。
- ○超党派的に熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例制定（2010年度）
- ○水俣病発生地地域の保健・医療・福祉の充実～関係部の連携

前例のない仕事ほど面白いことはない。

制度は変えるためにあるようなものだ！😊

- 各種の行政文書や参考文献を読み込むことはもとより、
各種セミナー等への参加や多くの現場に足を運び、雑談する。
 - ・物事の広さや深さ、そして本質を知るように努める。
 - ・また、地域内外の縁（人的ネットワーク）を大切にする。
- そういうプロセスを経て、今後の方策等を立案、実行する。
 - ・フローチャート、体系図、漫画等でわかりやすく表現する。
- それで、中身のある仕事ができ、政治的対応もできたと思う。
⇒**現場ありき、未来志向で、歴史の評価に耐え得る仕事を！**